



Windows でのインストールの 詳細

Version 2024.1
2024-06-03

Windows でのインストールの詳細

InterSystems IRIS Data Platform Version 2024.1 2024-06-03

Copyright © 2024 InterSystems Corporation

All rights reserved.

InterSystems®, HealthShare Care Community®, HealthShare Unified Care Record®, IntegratedML®, InterSystems Caché®, InterSystems Ensemble®, InterSystems HealthShare®, InterSystems IRIS®, および TrakCare は、InterSystems Corporation の登録商標です。HealthShare® CMS Solution Pack™ HealthShare® Health Connect Cloud™, InterSystems IRIS for Health™, InterSystems Supply Chain Orchestrator™, および InterSystems TotalView™ For Asset Management は、InterSystems Corporation の商標です。TrakCare は、オーストラリアおよび EU における登録商標です。

ここで使われている他の全てのブランドまたは製品名は、各社および各組織の商標または登録商標です。

このドキュメントは、インターシステムズ社(住所: One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142)あるいはその子会社が所有する企業秘密および秘密情報を含んでおり、インターシステムズ社の製品を稼働および維持するためにのみ提供される。この発行物のいかなる部分も他の目的のために使用してはならない。また、インターシステムズ社の書面による事前の同意がない限り、本発行物を、いかなる形式、いかなる手段で、その全てまたは一部を、再発行、複製、開示、送付、検索可能なシステムへの保存、あるいは人またはコンピュータ言語への翻訳はしてはならない。

かかるプログラムと関連ドキュメントについて書かれているインターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載されている範囲を除き、ここに記載された本ドキュメントとソフトウェアプログラムの複製、使用、廃棄は禁じられている。インターシステムズ社は、ソフトウェアライセンス契約に記載されている事項以外にかかるソフトウェアプログラムに関する説明と保証をするものではない。さらに、かかるソフトウェアに関する、あるいはかかるソフトウェアの使用から起こるいかなる損失、損害に対するインターシステムズ社の責任は、ソフトウェアライセンス契約にある事項に制限される。

前述は、そのコンピュータソフトウェアの使用およびそれによって起こるインターシステムズ社の責任の範囲、制限に関する一般的な概略である。完全な参照情報は、インターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載され、そのコピーは要望によって入手することができる。

インターシステムズ社は、本ドキュメントにある誤りに対する責任を放棄する。また、インターシステムズ社は、独自の裁量にて事前通知なしに、本ドキュメントに記載された製品および実行に対する代替と変更を行う権利を有する。

インターシステムズ社の製品に関するサポートやご質問は、以下にお問い合わせください:

InterSystems Worldwide Response Center (WRC)

Tel: +1-617-621-0700

Tel: +44 (0) 844 854 2917

Email: support@InterSystems.com

目次

1 Windows ユーザ・アカウント	1
2 Web サーバのインストール	3
3 コマンド行のリファレンス	5
3.1 コマンド行のプロパティ	5
3.2 カスタム・インストール可能な機能	10
4 自動開始の管理	13
5 書き込みキャッシュ・バッファ	15

テーブル一覧

テーブル 3-1: コマンド行のプロパティ	5
テーブル 3-2: カスタム・インストール可能な機能	11

1

Windows ユーザ・アカウント

InterSystems IRIS のインストール時に、InterSystems IRIS サービス、InterSystems IRIS Controller for <instance-name> を実行する Windows アカウントを選択する必要があります。これには、以下の 2 つのオプションがあります。

- ・ 既定の SYSTEM アカウント (Windows ローカル・システム・アカウント)。これは、**最小セキュリティ・インストール**で使用されます。
- ・ 定義済みの Windows ユーザ・アカウント。

多くのインストールでは、既定の SYSTEM アカウントで InterSystems サービスを実行することが適切ですが、ファイルのアクセス許可やネットワーク・セキュリティのアクセスに関連する問題が発生する場合があります。InterSystems IRIS インスタンスのこれらの領域において潜在的な問題が予測される場合 (ネットワーク構成やセキュリティ設定に起因する問題など)、必要な特権やアクセス権を持っている InterSystems サービスの Windows アカウントを指定します (ドメイン管理者のアカウントなど)。

インストール後にサービス・アカウントを変更する手順は、“[InterSystems IRIS インスタンスへのアクセスの管理](#)” を参照してください。

重要 Kerberos を使用する場合は、InterSystems IRIS をインストールする前に、Windows アカウントを構成する必要があります。“[Kerberos を使用したセキュリティ環境の準備](#)” で説明したように、この目的のために特別に設定したアカウントを使用することをお勧めします。

注釈 定義済みの Windows ユーザ・アカウントで InterSystems IRIS を実行する場合は、そのアカウントに Windows の “メモリ内のページのロック” (SELockMemory) 特権を付与してください。詳細は、“InterSystems IRIS のインストール準備” の章の “[Windows でのラージ・ページの構成](#)” を参照してください。

2

Web サーバのインストール

InterSystems IRIS をインストールする前に、サポート対象の Web サーバをインストールして、管理ポータルを含む Web アプリケーションにアクセスできるようにする必要があります。インストール手順は、選択する Web サーバに応じて異なります。詳細は、使用する Web サーバのドキュメントを参照してください。

多くの場合、InterSystems IRIS インストーラは、選択した Web サーバを使用する組み込みの Web アプリケーションを処理するよう、新しいまたはアップグレードされたインスタンスを自動的に構成できます。詳細は、“[Web サーバに自動的に接続する](#)”を参照してください。

Web サーバを手動でセットアップする場合は、IRIS をインストールした後にこれを実行できます。詳細は、“[Web サーバに手動で接続する](#)”を参照してください。

Web サーバを手動で構成する予定で、自動インストールを実行している場合は、`cspiis` コンポーネントを含め、`CSPKIPISCONFIG=1` を設定する必要があります。これにより、Web サーバを構成することなく、必要な IIS CSP バイナリ・ファイルがインストールされます。`cspiis` コンポーネントが含まれており、`CSPKIPISCONFIG` が設定されていないか、0 に設定されていると、インストーラは Web サーバの構成を試行し、Web サーバが検出されないと失敗します。

いかなる時点においても Web サーバを構成する予定がない場合は、`ADDLOCAL` から `cspiis` を省略できます。これにより、IIS CSP バイナリ・ファイルはインストールされなくなります。

重要 Microsoft IIS Web サーバは、インストール・プロセス中に自動的に構成できるため、この Web サーバの使用をお勧めします。インストール・プロセスの開始前に、これがインストールされ、実行されていることを確認してください。ほとんどの場合、IIS Web サーバを手動で構成する必要はありません。

3

コマンド行のリファレンス

3.1 コマンド行のプロパティ

“コマンド行のプロパティ”のテーブルでは、コマンド行インタフェースを使用して変更できる InterSystems IRIS 固有の自動インストールのプロパティについて説明します。これらは、[自動インストール](#)の実行時、またはコマンド行から[手動インストール](#)を開始する際に使用できます。プロパティ名は大文字で指定する必要がありますが、引数では大文字/小文字の区別はありません。それぞれのプロパティは 1 つ以上の空白で区切る必要があり、プロパティは `PROPERTYNAME=argument` という形式で指定できます。指定の順序は問われません。以下に例を示します。

```
... ISCSTARTIRIS=0 ISCSTARTLAUNCHER=0 INITIALSECURITY=Normal
```

注釈 以下のテーブルでは、REINSTALL プロパティと REMOVE プロパティが、インストールされたインスタンスと共に使用されます。詳細は、それぞれ [“自動アップグレードまたは再インストールの実行”](#) および [“自動削除の実行”](#) を参照してください。

テーブル 3-1: コマンド行のプロパティ

プロパティ名	説明
ADDLOCAL	<p>このプロパティを使用して、このテーブルの後の例で説明しているように、featurenames のコンマ区切りリストをグループ名と共に指定することで、InterSystems IRIS の新規インスタンスを機能のサブセットと共にカスタム・インストールしたり、オプションのデータベースを除外したりします (“カスタム・インストール可能な機能” テーブルを参照)。</p> <p>注釈 ADDLOCAL プロパティが存在しない場合、または ADDLOCAL=ALL が指定されている場合、すべての機能がインストールされます。</p> <p>インストールされたインスタンスと共に使用される、REINSTALL プロパティも参照してください。</p>

プロパティ名	説明
CSPSKIPIISCONFIG	<p>オプションで、このプロパティを使用して IIS CSP バイナリ・ファイルをインストールします。値 1 を指定すると、IIS Web サーバ構成に変更を加えることなくファイルがインストールされます。値 0 を指定すると、仮想ディレクトリ /csp の有無にかかわらず、IIS Web サーバ構成が更新されます。</p> <p>注釈 cspis コンポーネントが含まれている場合、このプロパティの既定値は 0 になります。このプロパティが 0 に設定されると、Web サーバが検出されない場合、インストールは失敗します。インストーラが自動的に Web サーバを構成しないようにするには、このプロパティを 1 に設定します。</p>
CSPSYSTEMUSERPASSWORD	<p>セキュリティ・レベルが Normal または LockedDown (このテーブルの INITIALSECURITY プロパティを参照) の場合、必要に応じてこのプロパティを使用して、CSPSystem の事前定義されたユーザのパスワードを指定します。このプロパティを省略した場合、IRISUSERPASSWORD の値が使用されます。</p> <p>注釈 初期セキュリティ・レベルが None の場合は、このプロパティを使用しないでください。</p>
INITIALSECURITY	<p>必要に応じてこのプロパティを使用して、インストールされるインスタンスで使用されるセキュリティ・レベルを指定します。None、Normal、または LockedDown を指定してください。</p> <p>注釈 既定の None を受け入れるには、このプロパティを省略します。</p> <p>また、このテーブルの IRISUSERPASSWORD プロパティ、CSPSYSTEMUSERPASSWORD プロパティ、および SERVICECREDENTIALS プロパティも参照してください。</p>
INSTALLDIR	<p>必要に応じてこのプロパティを使用して、インスタンスをインストールするディレクトリを指定します。</p> <p>注釈 このプロパティを省略すると、既定のインストール・ディレクトリは、C:\InterSystems\IRISn になります。ここで、n は {empty}、1、2、...127 になります。</p>
INSTALLERMANIFEST	<p>付録 “インストール・マニフェストの作成および使用” の “マニフェストの使用” で説明されているようにインストール・マニフェストと共にインストールする場合、このプロパティを使用して、インストール・マニフェスト (つまり、エクスポートされるマニフェスト・クラス) の場所を指定する必要があります。</p>
INSTALLERMANIFESTLOGFILE	<p>付録 “インストール・マニフェストの作成および使用” の “マニフェストの使用” で説明されているように、インストール・マニフェストと共にインストールする場合、%Installer によるメッセージの出力先をこのプロパティで指定します。</p>

プロパティ名	説明
INSTALLERMANIFESTLOGLEVEL	インストール・マニフェストでインストールする場合、必要に応じてこのプロパティを使用して、インストール・マニフェスト・クラスの <code>setup()</code> メソッドの ログ・レベル を指定します。デフォルトのログのレベルは 1 です。
INSTALLERMANIFESTPARAMS	<p>付録 “インストール・マニフェストの作成および使用” の “マニフェストの使用” で説明されているように、インストール・マニフェストと共にインストールする場合、このプロパティを使用して、インストール・マニフェスト・クラスの <code>setup()</code> メソッドの最初の引数に渡される名前と値の組み合わせ (name=value) を指定します。このプロパティを使用して、構成パラメータ・ファイル (iris.cpf) を変更して、マニフェストの実行前に変更を有効化することができます。以下のパラメータを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • bbsiz • globals4kb、globals8kb、globals16kb、globals32kb、globals64kb • gmheap • LibPath • locksiz • MaxServerConn • Path • routines • ZFSize、ZFString <p>以下に例を示します。</p> <pre>INSTALLERMANIFESTPARAMS="bbsiz=512000,globals4kb=20, globals8kb=30,globals16kb=40,globals32kb=50, globals64kb=100,routines=40,gmheap=10000, LibPath=c:\libpath\,locksiz=2179648,MaxServerConn=5, Path=c:\lib\,ZFSize=2000,ZFString=3000"</pre> <p>64KB ブロック・サイズのデータベースを作成するマニフェストを実行する前に、100 MB (64KB バッファ) をインストールおよび有効化する場合には、以下が役立ちます。</p> <pre>INSTALLERMANIFESTPARAMS="globals64kb=100"</pre>
IRISSERVICEDOMAIN	<p>サービスの資格情報が <code>UserDefined</code> に定義されている場合に必要になります。このテーブルの <code>SERVICECREDENTIALS</code> プロパティを参照してください。このプロパティを使用して、IRISSERVICEUSER によって指定された Windows の InterSystems サービス・ログイン・アカウントのドメインを指定します。</p> <p>注釈 サービスの資格情報が <code>LocalSystem</code> と指定されている場合は、このプロパティを使用しないでください。</p>

プロパティ名	説明
IRISSERVICEPASSWORD	<p>サービスの資格情報が <code>UserDefined</code> に定義されている場合に必要になります。このテーブルの <code>SERVICECREDENTIALS</code> プロパティを参照してください。このプロパティを使用して、IRISSERVICEUSER によって指定された Windows の InterSystems サービス・アカウントのパスワードを指定します。</p> <p>注釈 サービスの資格情報が <code>LocalSystem</code> と指定されている場合は、このプロパティを使用しないでください。</p>
IRISSERVICEUSER	<p>サービスの資格情報が <code>UserDefined</code> に定義されている場合に必要になります。このテーブルの <code>SERVICECREDENTIALS</code> プロパティを参照してください。このプロパティを使用して、Windows の InterSystems サービスを実行するアカウントのユーザ名を指定します。</p> <p>注釈 サービスの資格情報が <code>LocalSystem</code> と指定されている場合は、このプロパティを使用しないでください。</p>
IRISUSERPASSWORD	<p>セキュリティ・レベルが <code>Normal</code> または <code>LockedDown</code> の場合に必要になります。このテーブルの <code>INITIALSECURITY</code> プロパティを参照してください。このプロパティを使用して、事前定義の InterSystems IRIS アカウント (<code>SYSTEM</code>、<code>Admin</code>、<code>SuperUser</code>) のパスワードを指定します。また、<code>SERVICECREDENTIALS</code> が <code>UserDefined</code> に指定されている場合には、IRISSERVICEUSER によって指定されたユーザ名を持つアカウントのパスワードも指定します。</p> <p>注釈 初期セキュリティ・レベルが <code>None</code> の場合は、このプロパティを使用しないでください。</p>
ISCSTARTIRIS	<p>インストール後に InterSystems IRIS が起動しないようにしたい場合は、オプションでこのプロパティを 0 に設定できます。既定は 1 です (InterSystems IRIS が起動します)。</p>
ISCSTARTLAUNCHER	<p>必要に応じてこのプロパティを 0 に設定すると、システム・トレイに InterSystems IRIS ランチャーが追加されなくなります。既定は 1 です (ランチャーが追加されます)。</p>

プロパティ名	説明
REINSTALL	<p>このプロパティを使用して、インストールされた InterSystems IRIS のインスタンスを再インストール（修復）したり、インストールされた InterSystems IRIS のインスタンスのカスタム・インストールされた機能を変更したりします（“カスタム・インストール可能な機能” テーブルを参照）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インスタンスに現在インストールされている機能（カスタム・インストールされた機能のサブセットの場合も、すべての機能の場合も）を再インストールするには、ALL と指定します。 ・ 現在インストールされている機能のサブセットとは異なる InterSystems IRIS 機能のサブセットを再インストールするには、featurenames のコンマ区切りリストをグループ名と共に指定します（このテーブルに続く例を参照）。 <p>ADDLOCAL プロパティ（新規インスタンスと共に使用する場合）および REMOVE プロパティ（インストールされたインスタンスをアンインストールする場合）も参照してください。</p>
REMOVE	<p>このプロパティを使用して、InterSystems IRIS のインスタンス、またはインストールされた InterSystems IRIS のインスタンスにカスタム・インストールされた機能のサブセットをアンインストール（削除）します（“カスタム・インストール可能な機能” テーブルを参照）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ InterSystems IRIS のインスタンスを削除するには、ALL と指定します。 ・ InterSystems IRIS 機能のサブセットを削除するには、featurename のコンマ区切りリストをグループ名と共に指定します（このテーブルに続く例を参照）。 <p>このテーブルにある ADDLOCAL（新規インスタンスの場合）および REMOVE プロパティも参照してください。</p>
SERVICECREDENTIALS	<p>セキュリティ・レベルが Normal または LockedDown（このテーブルの INITIALSECURITY プロパティを参照）の場合、必要に応じてこのプロパティを使用して、Windows InterSystems サービスを実行する資格情報を指定します。LocalSystem（既定のローカル・システム・アカウント用）または UserDefined（既存の Windows ユーザ・アカウント）のいずれかを指定します。プロパティを指定しない場合、既定の LocalSystem が使用されます。</p> <p>注釈 初期セキュリティ・レベルが None の場合は、このプロパティを使用しないでください。</p> <p>InterSystems サービス・アカウントの重要な情報は、“InterSystems IRIS インスタンスへのアクセスの管理” を参照してください。</p> <p>このプロパティに UserDefined を指定した場合、IRISSERVICEDOMAIN プロパティ、IRISSERVICEPASSWORD プロパティ、および IRISSERVICEUSER プロパティも指定する必要があります。</p>

プロパティ名	説明
SKIPUPGRADECHECK	<p>インスタンスをアップグレードする場合に、アップグレード前のシステム・チェックをバイパスするには、このプロパティを 1 に設定します。デフォルトは 0 です。</p> <p>注釈 一般的に、アップグレード前のチェックは有効なままにすることをお勧めします。</p>
SUPERSERVERPORT	<p>必要に応じてこのプロパティを使用して、インストールされるインスタンスで使用されるスーパーサーバ・ポートを指定します。</p> <p>注釈 既定では、このポートは 1972 に設定されます (可能な場合)。それ以外の場合、ポートは 51773、またはこれ以降の使用可能な最初のポート番号に設定されます。</p>
UNICODE	<p>必要に応じてこのプロパティを使用して、インストールされるインスタンスでサポートされるのが 8 ビット文字か 16 ビット Unicode 文字かを指定します。8 ビット文字の場合は 0 を指定し、16 ビット文字の場合は 1 を指定します。</p> <p>このプロパティを省略する場合、中国語、韓国語、日本語を除くすべての言語に、既定で 8 ビットが指定されます。中国語、韓国語、日本語のシステムには、既定で 16 ビットが指定されます。</p>

3.2 カスタム・インストール可能な機能

“カスタム・インストール可能な機能” のテーブルには、コンポーネント・グループ/コンポーネント名とそれぞれに関連付けられた featurename が示されています。“ALL” (使用可能なすべての機能を指定) または機能名のコンマ区切りリスト (空白なし、個々の機能を指定) を指定できます。

ADDLOCAL、REINSTALL、および REMOVE のプロパティでコンポーネントを指定するには、コンポーネント・グループの featurename の後に、インストールするそのグループからの各特定コンポーネントの featurename を付けて指定します。例えば、USER データベースのみをインストールする場合、コマンド行で以下を指定します。

```
ADDLOCAL=server,server_user
```

コンポーネント・グループを指定する場合は、関連付けられたコンポーネントを少なくとも 1 つ指定することも必要となります。コンポーネント・グループにコンポーネントがリストされていない場合、そのコンポーネント・グループは無視され、コンポーネントはインストールされません。例えば、次のように指定したとします。

```
ADDLOCAL=documentation,documentation_pdf,server,development,callin
```

この場合、server コンポーネント・グループは無視され、サーバ・コンポーネントはインストールされません。([スタジオ] および [キューブ] グループにはコンポーネントがないため、これらのグループにはこの要件は適用されません。)

テーブル 3-2: カスタム・インストール可能な機能

コンポーネント・グループ (機能名)	コンポーネント (機能名)
開発 (development)	コールイン (callin) コールイン、スレッド (callin_threaded) スレッド・サーバ・ライブラリ (server_threaded) その他のサンプル (other_samples) その他の開発ライブラリ (development_other)
ドキュメント (documentation)	PDF ドキュメント (documentation_pdf) オンライン・ドキュメント (documentation_online)
InterSystems IntegratedML (integratedml)	
ランチャー (cube)	
サーバ (server)	User データベース (server_user) SQL ゲートウェイ (sqlgateway) Apache Formatting Objects Processor (fop) サーバ監視ツール (server_monitoring) エージェント・サービス (agent_service)
スタジオ (studio)	
データベース・ドライバ (sqltools)	ODBC (odbc) JDBC (jdbc)
Web ゲートウェイ (cspgateway)	IIS (cspiis)

4

自動開始の管理

Windows InterSystems サービスには、インスタンス名が含まれます。インストール後、既定ではインスタンスはサーバを起動すると自動的に開始されます。つまり、InterSystems IRIS インスタンスは、自動開始（システムの起動時に開始）するように自動的に構成されます。

このインスタンスが自動的に開始されないように構成するには、管理ポータルの **[メモリと開始設定]** ページ（ホーム・ページから **[システム管理]**→**[構成]**→**[システム構成]**→**[メモリと開始設定]**）で **[システム起動時に InterSystems IRIS を開始する]** 設定を変更します。

5

書き込みキャッシュ・バッファ

特定の InterSystems IRIS 機能では、[Windows]による書き込みキャッシュバッファのフラッシュを使用します。これは、既定で有効化されています。このオプションが適切に有効化されていて、InterSystems IRIS がこれらの機能を最大限に活用できることを確認するには、次の手順を実行します。

1. [コントロール パネル] から [デバイス マネージャー] を開きます。
2. [ディスクドライブ] セクションでストレージ・デバイスを選択します。
3. [ポリシー] タブをクリックします。
4. [デバイスで Windows による書き込みキャッシュ バッファのフラッシュをオフにする] が選択されていないことを確認します。

